

生け花通じ高校生と交流

原画展開催中

漫画家・山田はまちさん



真剣な表情で花を生ける高校華道部の部員たち

湯上市出身の漫画家山田はまちさん（埼玉県住）の原画展を開催中の横手増田まんが美術館で14日、山田さんを招いたイベント「ハナイケルフェスティバル」が行われた。地元の高校生が生け花を制作し、生け花を題材に漫画を連載していた山田さんがそれぞれの作品を講評。生け花を通じ、山田さんと高校生らが交流した。

横手 まんが美術館でイベント



作品を講評する山田さん

山田さんは高校華道部を舞台にした漫画「ハナイケル」川北高校華道部」を昨年2月から今年3月にかけて小学館の漫画雑誌に連載。作品は生け花の全国大会「I kenoboo花の甲子園」とコラボし、大会を告知するポスターやウェブサイトにイラストが活用された。

イベントには今年の花の甲子園で準優勝した横手城南と、平成湯沢翔北の3校の華道部員が3人ずつ参加。全国大会と同様、1人10分の持ち時間で3人が交代して一つの作品を仕上げる形式で制作した。部員は山田さんと来場者約50人が見守る中、カスミソウやサングミスキなど用意された花材の特徴を生かし、配置を工夫しながら思い思いに作品を仕上げた。

山田さんは部員が制作する傍ら、生け花を漫画の題材とした経緯と魅力などを紹介。現在1月2日開催の生け花の稽古を受けているといい、「季節感のある花々に触れていると癒やしくなる」と語った。

完成後、山田さんが各作品を講評し、3校に描き下ろしイラスト入りのサイン色紙を贈った。湯沢翔北2年の高久結捺さんは「緊張したが、仲間と協力して花を上げる機会をももらえてうれしい。周囲の支えに感謝する思いを作品に表現した」と話した。

各校の作品はさよふたまでまんが美術館に展示される。原画展は1月19日まで。1月4日は山田さんのトークショー、母校の秋田工業高吹奏楽部によるマーチングバンド演奏などが行われる。

（佐藤悠介）